

リスクコミュニケーション
事例集

I社 リスクコミュニケーション事例

(1) 参加者概要

- ・事業所隣接地域の自治会役員 6人
- ・行政(県4人、市3人、)
- ・学校関係者(学生含め) 30名
- ・事業所隣接企業(2社3名)
- ・I社親会社 1名
- ・I社従業員 22人
(総務4人、設備環境担当5人、環境安全部5人、その他8名)

(2) 当日のプログラムとその詳細

プログラム

- 13:30~13:35 挨拶 (事業場長)
- 13:35~13:55 会社概要説明 (事業場長)
- 13:55~14:20 事業場説明 (総務チームリーダー)
- 14:20~14:30 休憩
- 14:30~15:10 工場内見学(約10名/班 3班構成にて分散見学)
見学ルート:製造工程、屋上太陽光パネル、工場周囲 憩いの場
- 15:10~15:30 質疑応答
- 15:30~ 解散

詳細

2-1 挨拶

I社 事業場長から挨拶

2-2 会社概要紹介

I社で作成した会社概要をプロジェクターにて説明しました。

2-3 工場概要説明

資料を用い、事業場総務 TL から事業所の概要を説明しました。

2-4 環境への取組

資料を用い、事業場総務 TL から環境への取組を説明しました。

2-5 工場見学

三班に分散して、構内を見学しました。

会場:管理棟食堂 製造工程 屋上太陽光パネル 工場周囲 憩いの場 管理棟 食堂

2-6 質疑応答

参加者の方々から、感想等をお聞きしました。

2-9 閉会の辞

総務 TL から閉会の辞を述べ、地区懇談会を終了しました。

(3) 配付資料等の概要

- ・工場概要パンフレット
- ・弊社グループの CSRレポート

(4) 住民等からの意見

参加者1：解決姿勢が早く、対応も早いと感じました。

参加者2：臭気が感じられましたがどういもののでしょうか？

学生2：生産量が増えれば、どれだけのスクラバーの水が増えていくのですか？

大学教授：住民と話しやすい状況が出来ていないような気がしました。

災害時の対策についての説明がなかったように思います。

また、万が一のとき住民や社員がどこからどこに逃げればいいのでしょうか？

緑化に取り組むのは良いが、避難場所になり得るのでしょうか？

自治会長：I社さんの感想を述べさせていただきます。

この様な会は今日で3回目くらいだと思います。ここには遺跡もありますが、I社さんは人と環境に優しい企業だと思います。

また、地域住民に非常に馴染んでもいます。夏には盆踊りも事業場で開催させていただき、I社さんのご配慮により安全で楽しくすることが出来ました。

公園ですが、あの公園は年寄りから子供まで自由に利用させていただいております。

また、水路についてですが、毎日検査をして歩いて見え、少しでも住民に迷惑をお掛けないようにとやっていたいております。地球に優しいと言うより、住民に非常に優しい会社と言う企業の感想を受けています。

(5) 記録

- ・弊社のHP掲載、事業所新聞掲載、

(6) リスコミ実施後の反省など

事業場長・・・初めての経験で色々地域の方々・関係官庁の方々・第三者の方々のご意見を賜った。今後も地域と共生を図り信頼される工場としよう！

総務担当・・・もう少し、地域の住民の方々の目線ですべきと思う

企業・官庁・大学のアピールにならないようにすべきだと思う。

事前に、地域の方々にアンケートなどで、リスコミにどんな事をききたいか？

地域の方々のニーズを把握すべきかもしれない

製造担当・・・総務の方と同感である。

リスクにこだわらず大きな意味でのコミュニケーションをとるべきではないか？

住民の方々は、企業にリスク開示だけを求めているわけではないのでは？

- I 株式会社 大垣中央事業場
- 地域リスクコミュニケーション開催資料
- 開催日 平成21年11月17日

0

皆さま
ようこそいらっしゃいませ
中央工場へ



1

リスクコミュニケーション(中央事業場)

本日のスケジュール

- 13:30 ~ ご挨拶 (K事業場長)
- 13:35 ~ 会社概要説明 (K事業場長)
- 13:55 ~ 事業場説明 (総務課長)
- 14:20 ~ 休憩
- 14:30 ~ 事業場見学 (A・B・C 3チーム)
- 15:10 ~ 質疑応答
- 15:30 閉会

2

I(株) 概要説明



目次

- 会社概要・I社のあゆみ P 4 - 5
- I社製品の変遷 P 6
- 自前の電力エネルギー P 7
- 連結中期経営計画・業績 P 8 - 9
- 製品紹介 P 10 - 12
- 国内・海外拠点 P 13 - 14
- I社ウエイ P 15
- 中央事業場での主力製品 P 16 - 18

4

会社概要 基本データ

- 設立 1912年(大正元年)11月25日
- 代表者 代表取締役社長 竹中 裕紀
- 資本金 641億 52百万円
- 売上高 連結 3,093億 00百万円
単独 1,907億 96百万円
- 本社所在地 〒503-8604 岐阜県大垣市神田町2-1
- 従業員数 I社グループ 11,346名
I社正社員 2,952名
- 経常利益 連結 34億84百万円
単独 16億23百万円


2008年度の主な売上げ・経常利益などです

(2009年3月末)

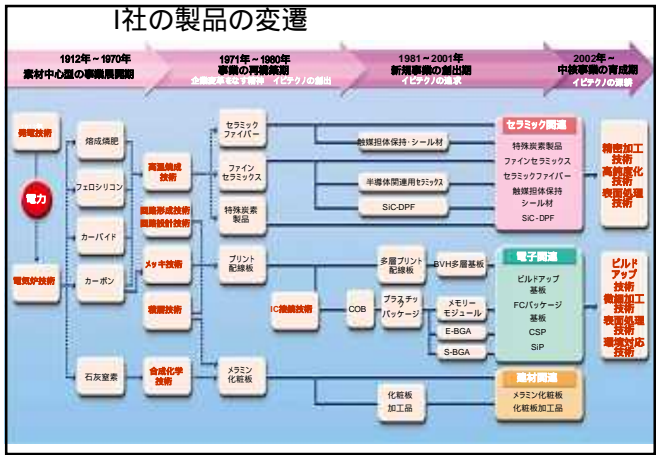
5

I社のあゆみ 沿革

1912 (大正元年)	資本金100万円をもって揖斐川電力(株)を設立 (本店 東京市赤坂区高輪町8番地)	1998 (平成10年)	大垣事業場でICパッケージの製造開始 自動車排ガス浄化用触媒を保持する アルミナマトを開発 TPM特別賞受賞
1969 (昭和44年)	特殊炭素製品(グラファイト)製造開始	2000 (平成12年)	フィリピンにICパッケージの製造会社 社フィリピンを(株)を設立 SiC-DPF(ディーゼル黒煙除去フィルター) 兼用車で世界初の実用化に成功
1972 (昭和47年)	プリント配線板製造開始	2001 (平成13年)	大垣北事業場でSiC-DPFの量産開始 中国にプリント配線板の製造会社 揖斐電子(北京)有限公司を設立 フランスにSiC-DPFの製造会社 社DPFフランス(株)を設立
1974 (昭和49年)	セラミックファイバー(イビコール)製造開始	2004 (平成16年)	ハンガリーにSiC-DPFの製造会社 社ハンガリー(株)を設立
1982 (昭和57年)	創立70周年、社名を社(株)と変更	2007 (平成19年)	電子関連製品の開発兼量産拠点として 大垣中央事業場を開設
1988 (昭和63年)	河間事業場でICパッケージの製造開始	2009 (平成21年)	特殊炭素製品の量産拠点として 神戸事業場を開設
1994 (平成6年)	TPM優秀賞(第一類)受賞		



2012年にて創立100年を迎えます



自前の電力エネルギーは

自家発電による省エネルギー活動

- 水力発電所 25,600kw
- コージェネレーション発電 26,610kw (火力発電)
- 太陽光発電 647kw



東横山発電所
(1922年運転開始)
13,600kw



コージェネレーション発電設備(大垣事業場)



八瀬発電所
(1926年運転開始)
8,000kw

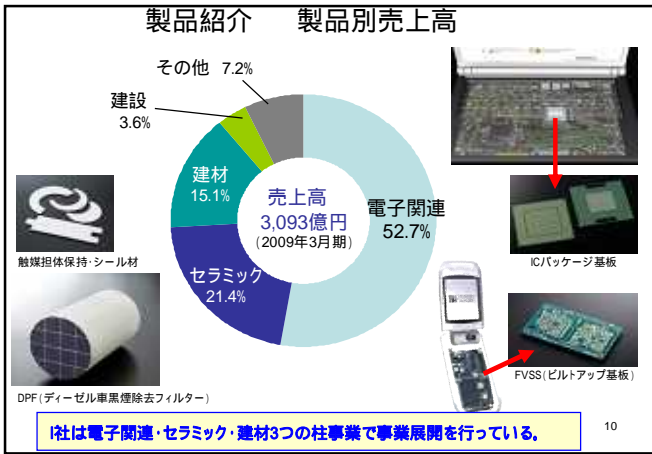
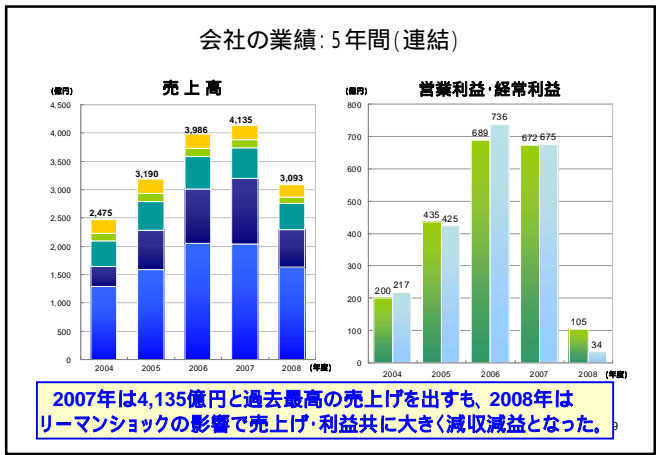


川上発電所
(1935年運転開始)
4,000kw



太陽光発電設備(大垣中央事業場)

電力自社供給率 約 **60%**



製品紹介 電子関連製品

電子関連の製品は、パソコンや携帯電話などに使用されている。

製品紹介 セラミック製品 自動車排気系部品

●SiC-DPF(ディーゼル車黒煙除去フィルター)
ディーゼルエンジンから排出される黒煙の99%以上を捕集することができる炭化ケイ素製高性能フィルター。

●触媒担体保持・シール材
排気ガスのリークを防ぐシール材で触媒担体の保持材として、優れた効果を発揮します

●排気管断熱材
断熱・遮音に優れたシートで断熱・防熱材として排気管や触媒コンバーターに使用されます

12

I社の海外拠点

- ・国内事業場：7事業場
- ・国内グループ会社；14社
- ・海外グループ会社；22社

13

I社の国内拠点

研究センター 本社
大垣事業場
大垣中央事業場
青柳事業場

エネルギー統括部 東濃山発電所
大垣北事業場
神戸事業所
研究センター 本社
大垣事業場
大垣中央事業場
青柳事業場
河間事業場

衣浦事業場

国内事業場：7事業場

14

I社 Way

私たちは人と地球環境を大切にします。

[社是] 誠実と積極性

共有すべき4つの価値観

企業理念
私たちは人と地球環境を大切に、顧客とともに新しい価値を創造し、社会の持続的な発展に貢献していきます。

共有すべき3つの行動精神

15

電子関連製品紹介

マザーボード：青柳工場

大垣工場 中央工場

IPI工場

マクロプロセッサ (MPU)

チップセット (MCH)

チップセット (ICH)

MPUとはコンピューターのもっとも重要な部品であるマイクロプロセッサチップをパッケージと呼ばれる基板に実装した部品である。イビデンのシェアは世界の約1/2です。

16

世界に広がるFCPKGの工場・営業拠点

TIBC 大垣工場 中央工場

I社 上海

I社 マレーシア・アジア

I社 USA Phoenix Office

社 フィリピン

IPI工場

●生産拠点 ●開発拠点

●営業拠点 ●技術補助

【FC関連の工場】

- ・国内事業場；3事業場
- ・国内グループ会社；1社
- ・海外グループ会社；2社

17

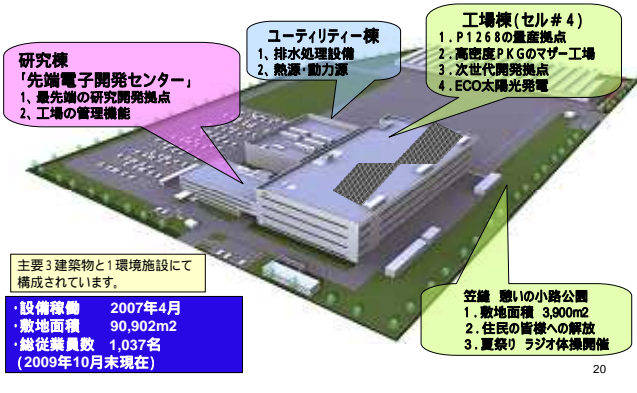
I社大垣中央事業場 事業場説明



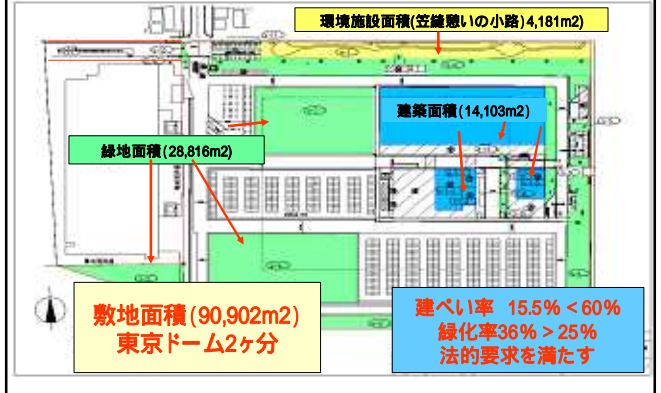
中央事業場の概要と活動状況

● 中央事業場の概要	P21 ~ P24
● 環境方針と活動計画	P25 ~ P29
● 各分科会の活動事例	P29 ~ P38
● 法令順守と自主管理	P39 ~ P43
● 安全衛生活動	P44 ~ P49

中央事業場の工場全体



中央事業場平面図



中央事業場の地域開放公園

大垣中央 笠縫憩いの小道 (憩いの空間)



屋上太陽光パネル



I社 環境基本方針

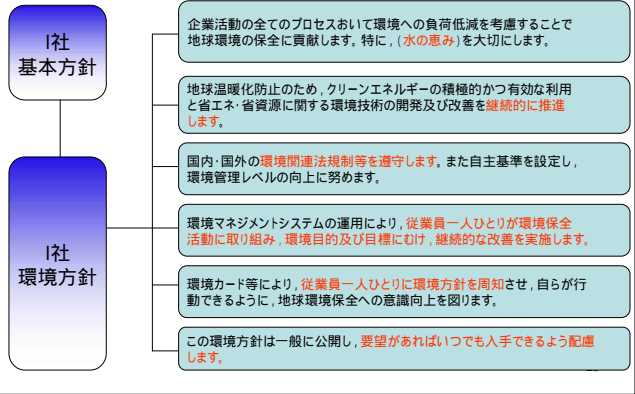
● 基本方針

私たちは、「社 Way」に基づき、全員参加で環境負荷を低減する活動を行い、事業活動において発生する地球環境への影響を緩和し、次の世代へと受け継がれていく企業としての役割を果たし、地球環境との共存を目指します。

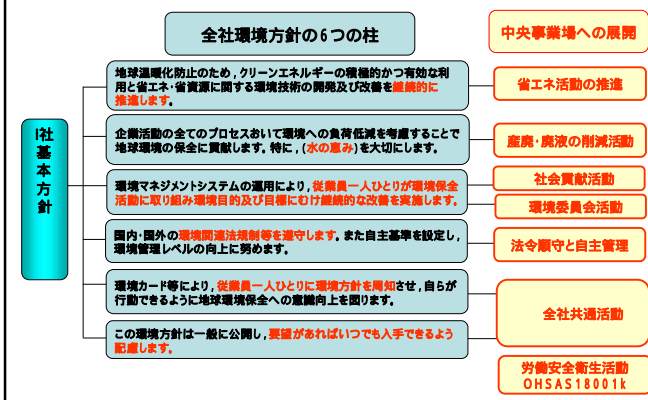
【環境方針の6つの柱へ展開】



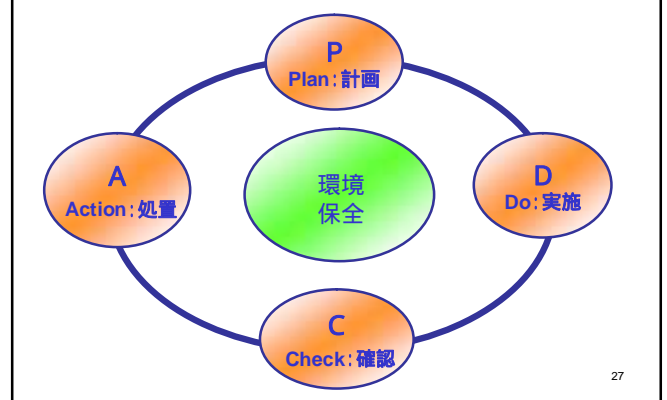
全社6つの柱活動



全社の6つの柱活動から中央事業場への展開



環境保全活動



中央事業場の活動事例

省エネ活動の推進



重点実施項目	管理指標	BL 09年Q3	09年 Q4	10年 Q1	10年 Q2
・省エネ活動 = CO2削減 (1) ボイラーエネルギー 灯油から都市ガスへ変更 (2) 電力の削減 14テーマ モーターのインバータ化 WET設備の省エネモード化 水洗トイレの廃止	CO2 排出量 (Kt/Q) Q:3ヶ月	8.0	7.8	7.5	7.3 (9%)

28

CO2削減:ボイラー燃料転換(灯油 都市ガス導入)

ボイラー燃料転換 灯油 都市ガス導入

燃焼時の排出物

従来燃料(灯油)

- ・CO2
- ・NOx(窒素酸化物) 100ppm
- ・SOx(硫黄酸化物)
- ・H2S(硫化水素)
- ・H2O(水蒸気)
- ・煤塵(スス)

代替燃料(都市ガス)

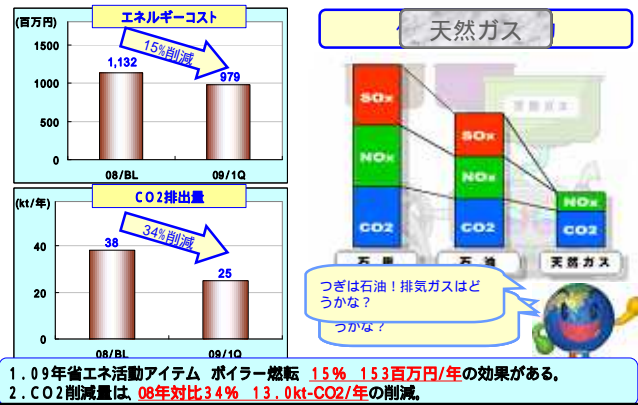
- ・CO2 (30%削減)
- ・NOx(窒素酸化物) 60ppm
- ・H2O(水蒸気)

燃料を灯油から都市ガスに変えることで、CO2は30%減りその他の有害物質もほとんど出ないんじや。



29

CO2削減: ボイラー燃料転換(灯油 都市ガス導入)



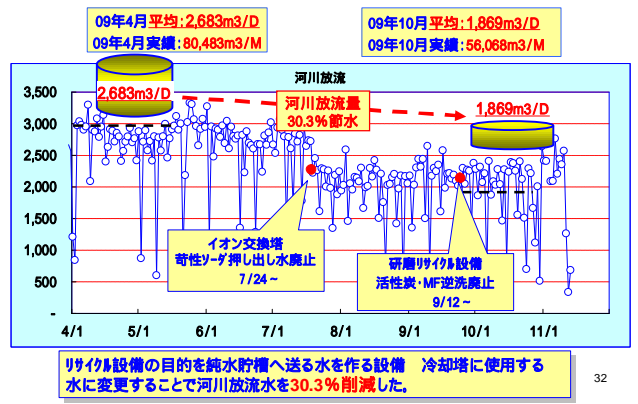
中央事業場の活動事例

産廃・廃液の削減活動

重点実施項目	管理指標	BL 09年3月	09年 10月	09年 12月
1. 生物汚泥量の削減 生物汚泥の自社脱水化 生物汚泥とは… 有機物を生物が食べてその後生物が出す排泄物及び生物の死骸	汚泥発生量 (t/月)	60	60	10
2. 酸系廃液の削減 酸系廃液とは… 銅が含まれたPH3以下の液	河川放流量 (m3/D)	2,683	1,869	1,850

31

酸系廃液削減して河川放流量削減



32

中央事業場の活動事例

社会貢献活動

重点実施項目	管理指標	BL 08年	09年 9月	10年 3月
1. 地域住民の皆様との共同活動 (1) 住民と社員による公園の清掃 (2) 工場周辺の側溝清掃 (3) 夏祭りの共同開催 (4) 公園内の植樹 (5) ラジオ体操の場所に提供	運営回数	7件	6件	9件
2. リスクコミュニケーションの実施	開催数	0件	0件	1件

33

公園清掃と夏祭り風景

清掃活動

町民の方による植栽を実施

公園清掃後の休憩

児童の通学路として提供

地域密着型活動

駐車場における夏祭り風景

清掃活動
・地域住民の方との清掃や植栽活動を継続実施(4月～10月)月1回(第2日曜日実施)
夏祭り開催
・当事業場内に駐車場にて笠縫町の夏祭りを開催 参加人員350名

34

これより法令順守と自主管理を説明致します

35

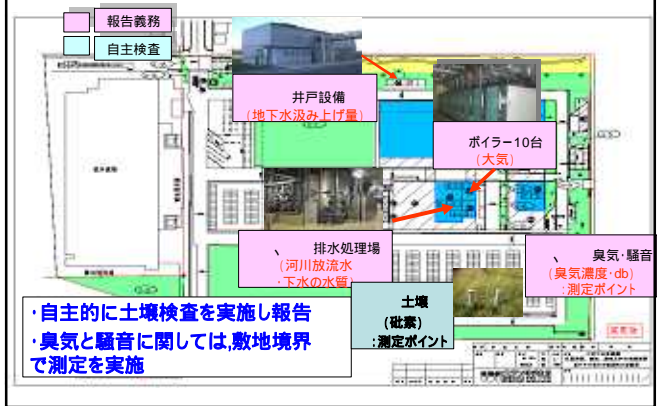
行政へ報告している環境測定項目

区分	報告の義務	環境に及ぼす可能性	管理項目
河川放流	義務有	河川の水質劣化	BOD・銅濃度など
騒音		住民の方の住環境の劣化	デシベル(db)
下水		最終処理場への負荷増大	窒素・リンなどの濃度
大気		大気の汚染	NOX
土壌	自主報告	地下への浸透	砒素検出量
臭気	義務有	住民の方の住環境の劣化	臭気濃度
地下水		地盤沈下	地下水汲み上げ量

行政に対しては報告義務測定項目(6項目)に追加して自主的に土壌の報告も実施しています。

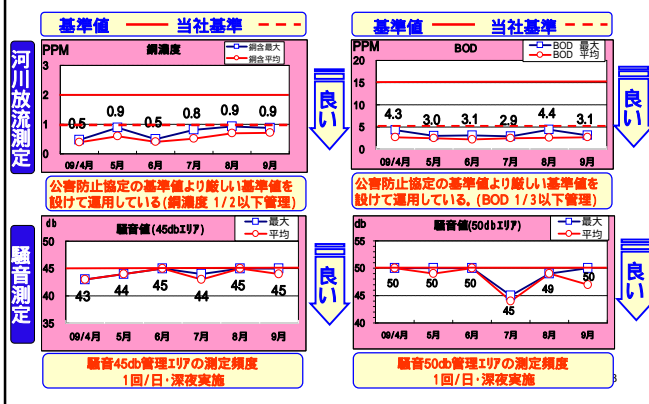
36

事業場内環境監視測定箇所

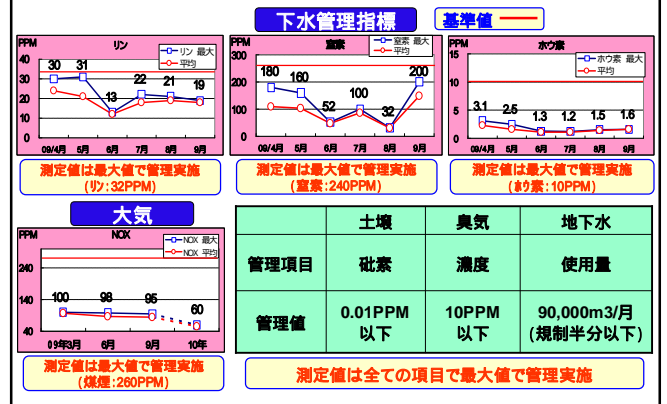


- ・自主的に土壌検査を実施し報告
- ・臭気と騒音に関しては、敷地境界で測定を実施

河川放流と騒音管理の結果



下水・大気・その他管理項目の結果



労働安全衛生活動事例

労働安全衛生活動 OHSAS18001

主な重点活動	参加メンバー	頻度	主な内容
事業場0災委員会	部門長・組合	1回/毎月	▶ 全社方針 事業場へ展開 ▶ 事業場 各部門へ展開
環境委員会	分科会リーダー	1回/毎月	▶ 各分科会のPDCA管理
事業場長巡視	事業場長 GM・TL	2回/毎月	▶ 工場敷地内外の不具合を指摘し是正指示する
安全サークル会議	サークルリーダー	1回/毎月	▶ 事業場0災委員会から展開 ▶ 1/3低減活動報告会実施

工場内:労働安全衛生活動

金メッキラインで使用している、シアン化合物の有害物質管理はPRTR法に基づき管理しています。



PRTRっていったい何なの?



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register):

化学物質排出移動量届出制度とは、有害性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外へ運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

化学物質を製造したり使用したりしている事業者は、環境中に排出した量と、廃棄物や下水として事業所の外へ移動させた量とを自ら把握し、行政機関に年に1回届け出ます。

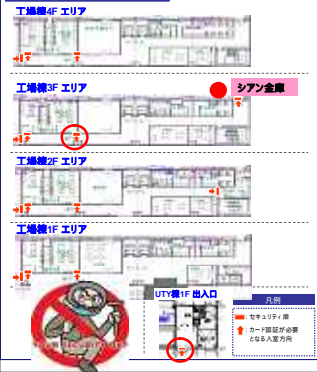
【管理ポイント】

- 使用量、排出量管理
- 有害性取扱教育
- 有害性の低い薬品への転換技術開発



工場棟 入退室セキュリティがかかっています

セキュリティ導入箇所



利用方法



工場棟には、各階には10個のセキュリティを導入し、外部進入が出来ないようにシステム化を実施している。

玄関からシアシアン化金の金庫までは、2箇所のセキュリティがあり、簡単に出入できないように管理している。

シアシアン化金カリウムの管理事例(保管・受払い)

(シアシアン化カリウム受払い表)

大塚中央工場 表面処理 工場名 金メッキ		管理責任者 矢野 隆雄	
品名 シアシアン化カリウム		小島薬品 (100g/本)	
日	受入予定	受入	残量
1			
2	2000		
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用数の量記載 職制による現物確認チェック

▶ 受払い表で数量管理を行い 2回/日の頻度で班長以上が確認

(保管は金庫で施錠管理)



▶ 金庫による厳重管理体制

環境巡視と非常処置訓練事例

事業場長巡視の改善事例



非常処置の訓練風景



リスク低減の活動事例(環境安全チーム)

テーマ	BL:リスク		GL:リスク		納期
	リスク点数	評価	リスク点数	評価	
スクラパーダクト(バルブ)閉鎖作業のリスク低減	1,425	B	28	D	9/30 完了
薬液補充時の飛散リスク低減	468	C	222	C	12/末

不具合内容	改善後の姿
脚立によってバルブ操作。	操作するバルブの位置を変更。
問題点: 転落する危険あり。	効果: 転落する危険がなくなった。

▶ 作業観察でリスク評価を点数にして不具合改善を行い点数を削減する

これより

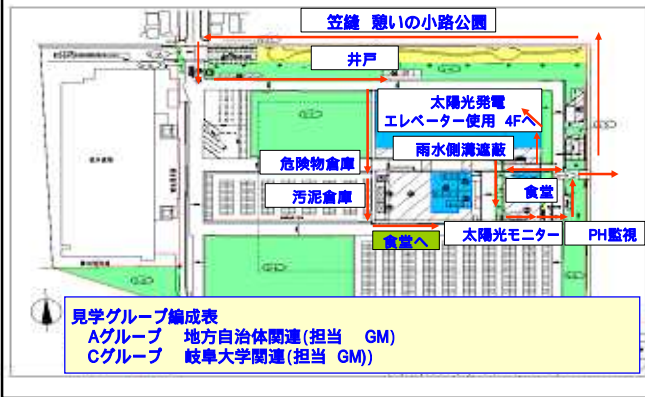
巡視ツアーの説明です

巡視ツアー経路順番(A・Cコース)

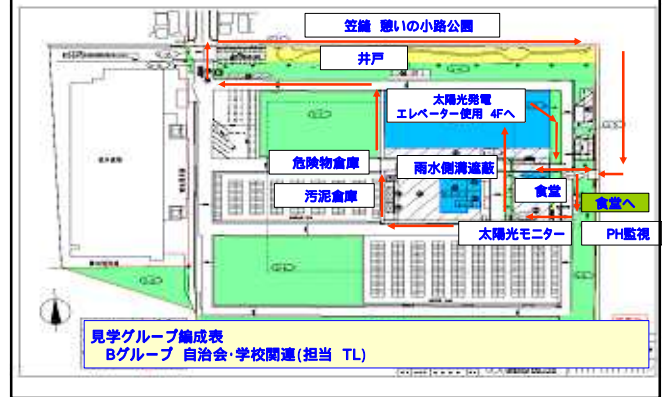
- 食堂
- 太陽光発電
- 太陽光モニター
- PH監視槽
- 雨水側溝遮断板
- 笠縫 憩いの小路
- 井戸
- 危険物倉庫
- 污泥倉庫
- 食堂

Bコースは逆コース より開始

見学ツアー経路(A・Cグループ)



見学ツアー経路(Bグループ)



本日はありがとうございました。

リスクコミュニケーションでの質疑応答1(抜粋)

- ・参加者1
解決姿勢が早く対応も早いと感じました。
- ・参加者2
臭気を感じられましたがどういものでしょうか？
- ・GM
スクラパーです。工程にメッキラインがあり酸系臭気は多少出ますが、毎日臭気チェックを行っており異常はありません。
- ・学生2
生産量が増えれば、どれだけのスクラパーの水が増えていくのですか？
- ・事業場長
現在フル稼働状態ですが、先ほどの水の量は減っています。
- ・岐阜大学教授
住民と話しやすい状況が出来ていないような気がしました。
災害時の対策についての説明がなかったように思います。
また、万が一のとき住民や社員がどこからどこに逃げればいいのか？
録化に取り組むのは良いが、避難場所になり得るのでしょうか？
- ・事業場長
緊急避難場所については、工場発火時の影響を受けにくい守衛所近くを指定してあります。またスクラパーからの臭気については、スクラパー口でサンプリングをして、有害物の有無のチェックにより、人体に影響のないことを確認しています。
今後とも、皆様のご理解ご協力を頂きます様、宜しくお願いします。

リスクコミュニケーションでの質疑応答2(抜粋)

- ・自治会長
社さんの感想を述べさせていただきます。
この様な会は今日で3回目くらいだと思います。
ここには運動場もありますが、社さんは人と環境に優しい企業だと思えます。
また、地域住民に非常に馴染んでおります。夏には盆踊りも事業場で開催させていただき、社さんのご配慮により安全で楽しくすることが出来ました。
公園ですが、あの公園は年寄りから子供まで自由に利用させていただいてあります。
また、水路については、毎日検査をして歩いて見入、少しでも住民に迷惑をお掛けしないようにとやっていたり、地球に優しいと云うより、住民に非常に優しい会社と云う企業の感想を受けています。
- ・事業場長
私どもは、全てが完璧だとは思ってはいません。
組合、市、住民の方々からの声で、悪いところがあれば直ぐにでも直して行くこと
思っております。今回、この様な場を設けていただき、有難うございました。
次回には、前回よりもこの点が良くなったねと言われるように努力してまいります。
今後ともご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。

リスクコミュニケーションを終えて

- 意見
事業場長・・・初めての経験で色々地域の方々・関係官庁の方々・第3者の方々の
ご意見を聞いた。今後も地域と共生を図り信頼される工場としよう！
- 総務担当・・・もう少し、地域の住民の方々の目線ですべきと思う
企業・官庁・大学のアピールにならないようにすべきだと思う。
事前に、地域の方々にアンケートなどで、リスクにどんな事をききたいか？
地域の方々のニーズを把握すべきかもしれない
- 製造担当・・・総務の方と同感である。
リスクにこだわらず大きな意味でのコミュニケーションをとるべきではないか？
住民の方々は、企業にリスク開示だけを求めているわけではない！